

# 組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

大学院医歯薬学総合研究科 薬学系

部局長名：

檜垣和孝

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p><b>①-1 目標</b></p> <p>○教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上、女性教員や外国人教員など教員組織の多様性を含む)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院講義の内容について大学院生へのアンケートなどを実施することで教育効果を把握することを試みる。このデータを基にして、次年度以降の参考とする。また、外部から招く非常勤講師による講義についても同様の点検を行う。</li> <li>○教育方法・内容について</li> <li>・大学院授業の教授法についてFDで情報交換し、次年度以降の改善を図る。</li> <li>○教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</li> <li>・学習の成果について大学院生アンケートを実施し、成果の把握に努める。また、院生の就職状況についても継続して情報を収集し、希望との合致/乖離の有無についてデータ化することを試みる。</li> <li>○学生支援について</li> <li>・各種奨学金制度や日本学術振興会博士研究員への応募ならびに採用状況について把握する。</li> <li>○国際共同による教育の状況について</li> <li>・成均館大学とのダブルディグリー制度への入学を積極的に促す。</li> <li>・外国人留学生の受入れに向けた大学院入試体制の整備に努める。</li> <li>○外国人留学生の受入状況について</li> <li>・学部や教員に直接/間接にある外国からの問い合わせ数を把握し、外国人留学生の受入数の増加に努める。</li> </ul>	<p><b>自己評価</b></p> <p><b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p>○教育の実施体制、教育方法・内容および教育の成果(学習の成果)について</p> <p>FD委員会主催による定期的な講演会等を介して、教育(講義や研究活動など)に関わる事項の意見交換を行い、点検と改善に努めている。</p> <p>大学院講義においては、学部同様にシヤトルカードを利用することで、習熟度の理解を測った。さらに、外部から招いた非常勤講師の講義においても同様に実施し、疑問点のフィードバックを行った。これらのデータは、次年度開催の講義体系計画に有効に活用した。</p> <p>○教育の成果(卒業後の進路)について</p> <p>ほとんどが製薬あるいはその関連会社の研究開発や品質管理部門に内定しており、学生の希望と合致した進路となっている。最近の傾向として、博士前期課程修了後に薬剤師国家試験の受験資格を得るために科目等履修生になる学生が一定数いる。本年も5名の希望者があった。</p> <p>○学生支援について</p> <p>本年度、日本学生支援機構11名、ノートルダム育英財団1名、帝人(久村)奨学会2名が採用された。日本学術振興会博士研究員(DC1、DC2)の採用は無かったが、PDには1名採用された(その後、海外学振に採用され辞退)。</p> <p>○国際共同による教育の状況について</p> <p>・ダブルディグリー制度(DD)への入学を積極的に促すために、博士後期課程DDコースの募集要項の修正(出願・入学時期の変更)、およびH29の派遣・受入プログラムの改善に関する成均館大学との協議を行った。</p> <p>・学務委員会(薬学系)で、海外入試の導入について検討を始めた。</p> <p>○外国人留学生の受入状況について</p> <p>・先端薬学教育開発センターを中心に学部や教員への外国からの問い合わせに対するマッチングを行い、外国人留学生の受入数の増加に努めた。</p> <p><b>①-2 大学全体への貢献</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマーFDA職員1名を博士後期課程の正規生として受け入れた。</li> <li>・H29に博士後期課程研究生として受け入れるミャンマーFDA職員2名の学位論文研究指導教員のマッチングを行った。</li> <li>・成均館大学薬学学校大学院との間で、キャンパスアジア・ナノバイコース(短期)受入・派遣プログラム(派遣1名、受入3名)を実施した。</li> <li>・吉林大学からの4名の大学院(博士前期課程)学生をキャンパスアジア・ナノバイコース(短期)受入プログラムに受け入れた。</li> </ul>
<p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○FD実施状況や教育課程の内容・構成</p> <p>○学生が受けた様々な学会賞の状況</p> <p>○日本学術振興会DC特別研究員や各種奨学金制度の応募数/採択数</p> <p>○学生が発表した原著論文数(IFなどの値も参考にする)</p>	<p><b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>○FD実施状況や教育課程の内容・構成 別添資料添付</p> <p>○学生が受けた様々な学会賞の状況：第129回日本薬理学会近畿支部優秀発表賞、日本化学会第98春季年会学生講演賞、日本薬学会第136年会優秀発表賞2名、平成28年度日本化学会中国四国支部支部長賞4名(学部2名、博士前期・後期各1名)。</p> <p>○日本学術振興会DC特別研究員や各種奨学金制度の応募数/採択数 上記に記載済み</p> <p>○学生が発表した原著論文数(IFなどの値も参考にする)：H28年度において大学院生が著者(共著者を含む)として発表した論文数は38であった。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p><b>②-1 目標</b></p> <p>○研究水準及び研究成果等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度採用予定の新規教員を交えて、基礎及び臨床薬学分野の研究強化を図り、また部局内外や国内外の横断的連携プロジェクトの準備を行う。</li> </ul> <p>○研究実施体制等の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会からの要請や科学技術にかかわる政策の動向、また競争的資金にかかわる制度改革に留意しながら、構成員が自律的に外部資金獲得に努めるよう、申請書の校正・指導等も行う。</li> <li>・研究成果を出すことを目的とした施設の有効利用という観点で、共同機器や研究スペース活用の在り方を検討する。</li> </ul> <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理、研究コンプライアンスについての指導・周知を継続し、徹底する。</li> <li>・成果が目に見える段階に至る前から地道な支援を行いながら、各分野において基礎的あるいは応用的に価値の高い研究業績を挙げ、ホームページ等で広報する。</li> </ul>	<p><b>自己評価</b></p> <p><b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b></p> <p>・今年度採用予定の新規教員を交え、横断的連携プロジェクトの準備として、各研究室の取り組みをまとめて可視化し、今後の連携プロジェクトの礎を作成した。これを対外的説明の機会に活用し、連携のきっかけづくりを行った。</p> <p>・教員会議の際などに、社会からの要請や科学技術にかかわる政策の動向、また競争的資金にかかわる制度改革の状況を説明し、構成員の意識を高め、構成員が自律的に外部資金獲得に努めた。</p> <p>・共同機器や研究スペース活用の在り方を検討し、オープンラボの設定や、機器の管理運用方法の改善を図った。</p> <p>・研究倫理、研究コンプライアンスについての指導・周知を継続した。</p> <p>・各分野において基礎的あるいは応用的に価値の高い研究業績を挙げ、ホームページ等で広報を行った。</p> <p><b>②-2 大学全体への貢献</b></p> <p>土地・建物の有効活用、戦略的活用を推進(中期計画86、87、88)、法令遵守(研究活動における不正防止、教員等個人宛寄附金の適正な管理など)(中期計画92、93)、外部研究資金等の獲得の推進(中期計画：38、39、79)等に貢献したと考える。</p>
<p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <p>○論文・著書等の研究業績の状況</p> <p>○各種外部資金受け入れ状況</p> <p>○学部・研究科等を代表する研究業績リスト(インパクトファクターのみならず、研究手法が妥当であれば応えようとする社会課題の大きさも勘案)</p> <p>○若手教員・女性教員・外国人教員の採用状況</p>	<p><b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b></p> <p>今年度採用予定の新規教員を交え、横断的連携プロジェクトの準備として、各研究室の取り組みをまとめて可視化し、今後の連携プロジェクトの礎を作成した。教員会議の際などに、社会要請や科学技術政策の動向、また競争的資金にかかわる制度改革の状況を説明し、構成員の意識を高め、構成員が自律的に外部資金獲得に努めた。また研究倫理、研究コンプライアンスについての指導・周知を継続した。教員採用においては、若手、女性、外国人教員の比率が向上するよう努力を行った。・論文・著書等 研究業績リスト別添資料・外部資金受入状況 別添資料</p>

<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> ○地域社会との連携、社会貢献：薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学公開講座等の開催により、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。 ○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について：韓国・成均館大学との連携を更に深めると共に、アジアの有力大学等との連携をも進め、国際交流を推進する。また、中国の研究機関等との研究協力をさらに進める。 ○その他：薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b> ○地域社会との連携、社会貢献：薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学公開講座等の開催により、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。 公開講座及び公開講演会を実施するとともに、広島大学及び徳島大学と連携して薬学会・薬剤師会・病院薬剤師会中四国支部大会においてこれまでの先導的薬剤師育成を目指した教育の展開に関するシンポジウムを実施し、約70名の参加を得た。 ○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について： ・韓国・成均館大学とのダブルディグリー制度(DD)を推進するために、博士後期課程DDコースの募集要項の修正(出願・入学時期の変更)、およびH29の派遣・受入プログラムの改善に関する成均館大学との協議を行った。 ・海外(特にアジア)からの優秀な出願者を増やすために、学務委員会(薬学系)で、海外入試の導入について検討を始めた。 ・台北医学大学(台湾)との間で、部局間協定を締結し、大学院での研究・教育交流を推進することとなった。 ・ONECUS専攻の薬学系での実施について、学内で検討および調整を始めた。 ○その他： 公開講演会、公開講座及びホームカミングデーの際に薬用植物園の一般公開を実施し、多数の参加者に薬学関連の社会的な理解を進める機会とした。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ○公開講座等の実施状況 ○地域貢献・国際貢献への協力の状況	<b>③-2 大学全体への貢献</b> SGUとして、留学生受け入れに向けて、韓国・成均館大学との博士後期課程DDコースについての協議を行うと共に、台北医学大学(台湾)と部局間協定を締結し、教育・研究交流を推進をはかることとした。 公開講座、ホームカミングデーにおける薬用植物園の一般公開を通じて、岡山大学としての社会貢献に寄与した。
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b> ・ミャンマー-FDA職員1名を博士後期課程の正規生として受け入れた。 ・H29に博士後期課程研究生として受け入れるミャンマー-FDA職員2名の学位論文研究指導教員のマッチングを行った。 ・成均館大学薬学専攻大学院との間で、キャンパスアジア・ナノバイコース(短期)受入・派遣プログラム(派遣1名、受入3名)を実施した。 ・吉林大学からの4名の大学院(博士前期課程)学生をキャンパスアジア・ナノバイコース(短期)受入プログラムに受け入れた。 公開講座等の実施状況別添資料あり
<b>【総括記述欄】</b>	
教育、研究、社会貢献領域、いずれも当初目標を良好に達成したものと評価している。来年度は、教育領域では、引き続き、講義内容の検証等を試みることで、より質の高い教育の実施を目指す。研究面では、昨年度に引き続き、横断的連携プロジェクトの構築を目指し、検討を続ける。社会貢献領域においては、公開講座、植物園公開などを通じ、薬学に関する最新情報を一般社会人、薬剤師に提供することで、引き続き、貢献していった。また、国際交流に関しては、引き続き、アジアの有力大学を中心に、国際交流を深めていく。特に、韓国成均館大学とは、ダブルディグリー制度の実質化に向けて、引き続き、協議していく。	